

知事賞 優秀賞 (日本税理士会連合会 会長賞)

一人がみんなの為に。みんなが一人の為に。

福島市立飯野中学校

三年高 野 瑞 穂

五月になると、「あつ、自動車税。」六月には「住民税払わなくちゃ。」そして年が明けると、「確定申告の準備進んでる？」などと言った会話が家の中で聞こえてくる。私はそんな話を聞くたびに、「なんで税金なんて払わなくちゃいけないんだろう。その分私に何か買ってくれたらいいのに。」と思っていた。そして今年も、同じような税金の話をしていたので、「税金を払うなんてもったいない。」と言ってみた。すると母に「病院に行けなくなってもいいの？学校だって教科書だってタダじゃなくなるよ。ゴミの収集だって来てもらえなくなると、そこら中ゴミだらけになるよ。みんな税金があるから今の生活が送れるんだから。」と言われてしまった。私は驚いた。まさかそういった所に税金が使われているとは、夢にも思わなかった。私達の生活が快適に送れるのは、大人達が一生懸命働い

て、税金を納めてくれていたからなのだ。みんなの為にみんなが助け合うこういった仕組みを、「相互扶助」というそうだ。

今、日本は借金大国である。そして消費税を上げようという動きがある。その原因の一つは、景気が悪化し、税収が減っているからである。また、少子化が進み、人口の減少により税金を納める人が減っているのもその一つである。この状態が進むと、私達の未来はどうなってしまうのだろうか。年を取り、働けなくなっても年金ももらえず、生活できなくなってしまうだろう。病院に行きたくても高い医療費を払わなくては行けなくて、我慢してしまうかもしれない。学校に行きたくても、お金がなくて行けなくなり、昔のように字の読み書きさえもあまりできないといった人もでてきてしまうかもしれない。こんな状態になれば、今私達が守られている、「人権」といったものも無くなってしまうであろう。では、どうしたら良いのであろうか。

一人一人が、どういったものに税金が使われているのかもっと認識を深め、苦勞して払われた税金なのであるから、感謝し、大事にしなければならぬと思う。私自身の日常生活の中にもたくさん税金が使われている。更に私には長く認知症になり入院したままの曾祖母もいる。年金をもらい、介護保障のおかげで何とか過ごしてこられたと思う。人々はお互いに助け合って生きていく。「一人がみんなの為に。みんなが一人の為に。」この言葉を私は三年間頑張ったバスケットボール部で習った。この言葉は部活に限らず、人間社会全体に通じる言葉だということに今回私は気付いた。税金を払う時には何となくもったいなく思ってしまう。消費税だって無ければ良いとしよっちゃうと思う。しかしそれはゆくゆくは自分に返ってくるものであるし、自分自身が支えられている社会に恩返しするようなものなのだ。私もいつか大人になり働き、税金を納める時がきたら、感謝の気持ちを持ち、どうか役に立ちますようにと願い、払いたい。